

日本藻類学会第46回大会（オンライン福井）開催記

吉川 伸哉

令和4年3月28～30日の日程で、日本藻類学会第46回大会（オンライン福井）を福井在住の藻類学会員を中心に開催させて頂きました。参加者は202名そのうち学生が62名、発表では口頭42演題、ポスター39演題、高校生によるポスター発表が2演題でした。本来天候とは無関係なオンライン開催ではありますが、福井を含む北陸地方は「雪おこし」と名称があるほど冬季に雷が多いため、落雷による停電を心配しましたが、少なくとも福井県は3日とも好天に恵まれZoomのホストが落ちることもなく、ネットワーク的には無事に終えることができて安心しました。

これまでも福井県での大会の開催について検討されたことがありましたが、福井県立大学の海洋生物資源学部は、風光明媚な小浜市に位置する一学部一学科だけの小さなキャンパスにあるために、小浜キャンパスの施設と小浜市の宿泊施設のキャパシティー等の問題から、福井県での開催は実現しませんでした。昨年5月に学会会長の小亀先生から、福井県での学会の開催について打診があった際に、私から前回の品川大会と同様にオンライン開催で良ければ、福井県の学会員で開催可能であることを提案させて頂き、オンライン福井大会を開催させて頂くこととなりました。当時はワクチン接種が先行していたヨーロッパ諸国では、感染者数の急激な低下が報告され、サッカー欧州選手権でのノーマスクで肩を組み大声で応援する各国のサポーターの映像を見て、日本国内のおいてもワクチン接種が完了している2022年3月は、コロナ禍以前の状況にもどり対面での学会開催が可能なのではと楽観的な予測をしていたので、オンラインでの開催を提案しておきながら5月の段階でオンライン開催を確定させることに対して若干の不安もありましたが、小亀会長の決断力により早々に、オンライン開催として準備を進めることができました。その後の国内のコロナ感染者数の状況は皆様もご存じの通りで、2021年の秋に対面とオンラインのハイブリッドで開催を予定していた日本植物学会のオンライン開催への変更や、日本水産学会秋季大会の中止などがあり、改めて小亀会長のご慧眼に感服しております。

前回から引き続きオンライン開催となりましたが、この2年間でオンラインによる大会開催のノウハウが大幅に蓄積されたことや、参加者の多くがオンライン学会やオンラインツールの経験があることから、オンライン開催そのもののハードルは大分下がっているように感じました。また、実行委員の1人である佐藤先生が国際珪藻学会や日本珪藻学会のオンライン学会の運営に携わった経験から、参加者のオンライン登録やLinc Bizの運用をほぼ1人で担当して頂いたことで、少人数でもなんとかオンライン大会を運営できました。

オンライン大会を開催することとなり、最初に考えたこと

は、オンライン大会の利点を生かして、これまであまり藻類学会に参加されていない人を招待できないかということでした。そこで、特にシンポジウムに関しては、これまでに藻類学会にはあまり参加したことのない演者で構成されるようなテーマを高尾先生、佐藤先生、山田先生で考えて頂き、最終的に「藻類をめぐる様々な生物間インタラクション」となりました。シンポジウムでは藻類と、ウイルス・バクテリア、有孔虫、ゾウリムシ、ツボカビとの関係についての最新の知見を交えながらご講演頂きました。ワークショップでは、新しい研究手法を導入するときのハードルを下げるために、画像解析、光合成解析、ゲノム編集、メタボローム解析の入門講座として、それぞれの手法に精通されている講師を招いて講演をして頂きました。ワークショップでも普段は藻類学会に参加されていない、講師の方々にもご協力して頂いたことも遠隔開催のメリットでした。

これまでの対面の大会では、大会会長の大きな役割の1つとして企業への寄付金の依頼があると思いますが、私の力不足で企業からの寄付金は期待できないことは自覚しておりましたので、企業に寄付金をお願いをするかわりに、なるべく経費をかけない、コンパクトな運営を目指しました。大会の運営に必要な経費が少ないことも、オンライン大会の利点だと思います。オンライン大会用のツールとして、昨年と同様にLinc Bizをプラットフォームとして、Zoomを発表会場として使用しました。幸い福井県立大学で契約しているZoomの4つのライセンスを無料で使用できたために、経費を削減することができました。大学の講義で使用しているZoomのライセンスを流用したために、基本的に特定の参加者だけが発言可能なウェビナー形式ではなく、参加者の誰もが自由に発言できるミーティング形式での開催となりましたが、発表中に関係のない参加者の音声が入る等のトラブルもなく、参加者のリテラシーの高さに支えられた大会でした。

Zoomを無料で使用できたために、少ない予算をLinc Bizに振り分けることができ、ポスター発表だけではなく、口頭発表でもLinc Bizでの質疑をできるように契約しました。これまでの対面の大会でも、口頭発表では、発表時間だけでは十分な質疑の時間を確保できないことが多く、不足分を学会期間中の廊下、休憩室や懇親会場での対話で補完していたと思いますが、Linc Bizに口頭発表者のチャンネルも作成することで、少しは対面での大会に近い議論ができればと考えました。実際に口頭発表後に、Linc Bizを使ったコミュニケーションも行われ、口頭発表者のLinc Bizのチャンネルも、参加者間の交流に、一定の意義があったのではないかと考えております。しかし、Linc Bizとの契約が3月末までとなっていたため、大会期間終了後直ちに、Linc Bizの利用もできな

くなったことは、反省点の1つです。オンライン開催では、利用するオンラインツールとの契約期間も踏まえて、大会開催日を検討するべきでした。

ポスター発表では、ポスター発表を Linc Biz で掲示するだけでなく、Zoom のブレイクアウトルームを使用し、発表者と参加者がリアルタイムでコミュニケーションできる時間を作りました。オンライン大会において、口頭発表の形式はほぼ確立されている一方で、ポスター発表は様々な形式で実施させておりまだ試行錯誤の段階かと思いますが、2021年の植物学会でブレイクアウトルームを利用したポスター発表を経験し、発表者と参加者のコミュニケーションの観点では、もっとも対面の大会に近いのではと感じ、今回の大会でも同様の方法を採用しました。大会の参加者規模でのブレイクアウトルームの利用を想定した事前テストができなかったため、1つの Zoom アカウントで 20 室以上ブレイクアウトルームを立ち上げて、それぞれの部屋でリアルタイムのコミュニケーションを行った場合に、通信障害が起らないか予測できなかったため、不測の事態に備えて、予備の Zoom アカウントも準備していましたが、懸念していた通信障害が起こることもなくポスター発表を終えることができ安心しました。ポスター発表は、対面の大会を実施する場合でも、スペースと人手、場合によっては資金を必要とする発表の形式である上に、参加者が密になりやすいこともあり、今後しばらく続くと思わ

れるウィズコロナの大会の運営方法として、遠隔でのポスター発表の実施は、学会として検討すべき課題なのではと思っております。

今回の大会では懇親会がないことに、違和感をお持ちの参加者もおられたことと思います。これは、私が懇親会は、現地の美味しい特産品とお酒があってこそその藻類学会の懇親会と考えており、それらを提供できないオンライン懇親会は味気なく感じていたために、大会会長の独断で懇親会は行わないことを決定しました。オンライン大会期間中での交流を楽しみにされていた方には、大変申し訳なく思っております。この場を借りてお詫びいたします。開催記の冒頭で、キャンパスと小浜市の町の規模の問題で、小浜キャンパスでは対面の大会開催が難しいと述べましたが、小浜キャンパスは今年から学科が1つ増えて施設が拡大し、さらに将来的には北陸新幹線の駅が小浜にできることが決まっております。その時には、発展した小浜市で対面の大会を開催して、日本海の海の幸と福井のお酒で、藻類学会員の皆様をお迎えしたいと思っております。まだ、しばらく先のこととなりますが、その時は皆様是非、小浜キャンパスにお越しください。最後になりましたが、無事に大会を終えることができたのは、参加された皆様、運営に携わって頂いた実行委員、学生の皆様のおかげです。深謝いたします。ありがとうございました。



春の福井県立大学小浜キャンパス。